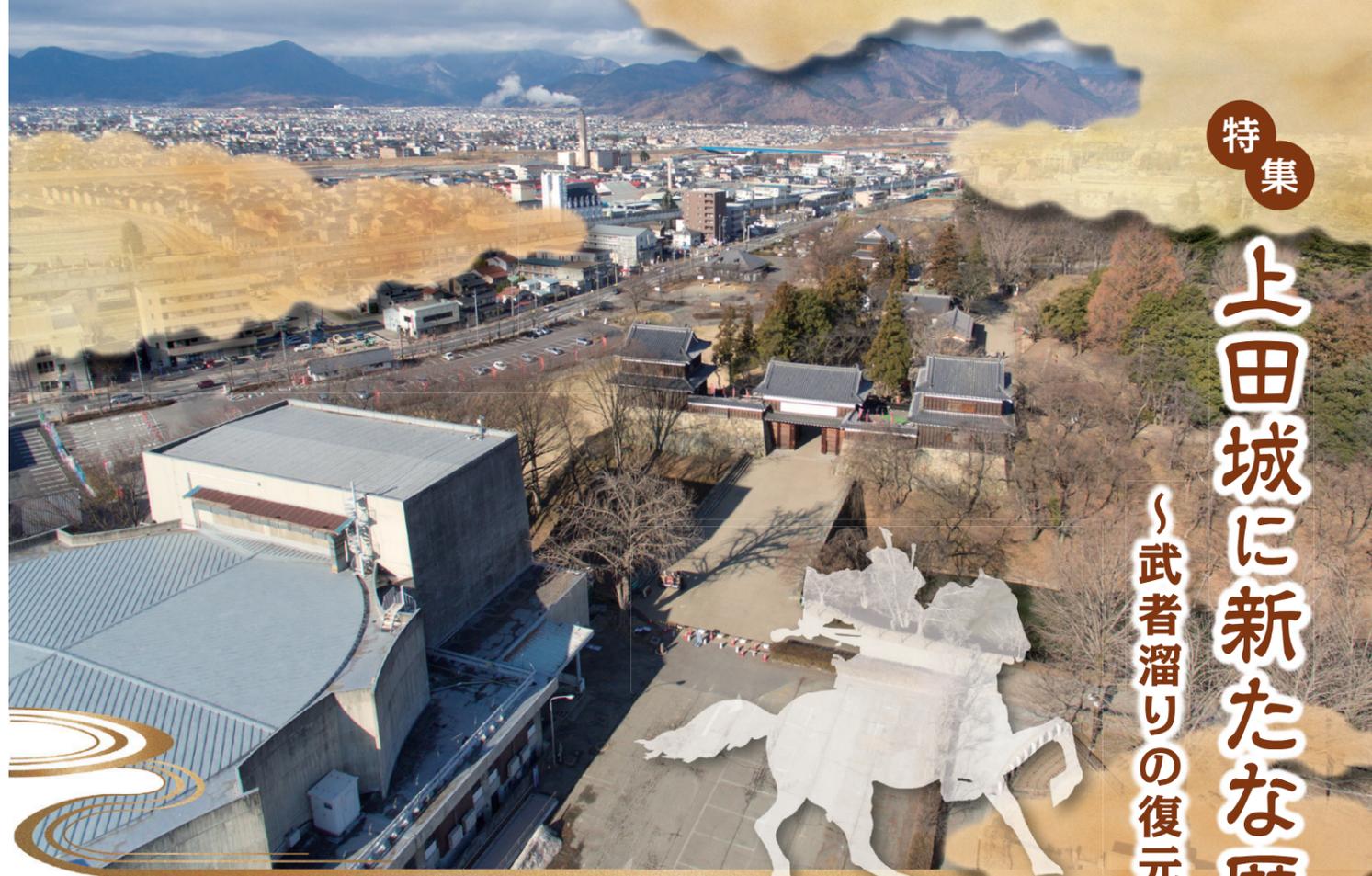


上田城に新たな歴史を

「武者溜りの復元整備が始まります」



上田城跡公園の旧市民会館や隣接する駐車場がある場所は、城を守るための兵を駐留させる「武者溜り」と呼ばれる場所で、三十間堀^{さんじゅうけんぼり}、土塁、石垣などがあつたことが複数の絵図から分かっています。城の正面として重要視された、本丸の南櫓、北櫓、櫓門に続くこの一帯を、江戸時代の上田城の姿に近づけるため、復元整備を進めます。

■上田城略年表

年	できごと
天正11年(1583)	真田昌幸が徳川氏の力を借りて上田城築城に着手。
天正13年(1585)	第一次上田合戦 徳川軍の大軍に攻められるも退ける。
慶長5年(1600)	第二次上田合戦 徳川軍の大軍に攻められるも退ける。関ヶ原合戦後、堀や石垣、建物などが破壊される。
寛永3年(1626)	昌幸の長男信之が領主となる。
寛永5年(1628)	真田信之の後、上田藩主となった仙石忠政が上田城復興に着手。
明治7年(1874)	忠政の死により復興中断。その後再開されず、廃城を迎える。
昭和24年(1949)	上田城の払い下げが始まる。その後、西櫓以外の櫓などが取り壊される。
平成6年(1994)	解体移築されていた櫓2棟が市民の寄付などにより買い戻され、城内に再移築される(現在の北櫓・南櫓)。
	古写真を基に本丸東虎口櫓門復元。

武者溜りとは？

城内で守兵が敵を攻撃するため一時的に駐留する場所。上田城では東側から攻めてきた敵に対し、さまざまな角度から攻撃できるように設けられたと考えられます。



※^{さんじゅうけんぼり}三十間堀
長さが三十間(約55m)だったことからそう呼ばれ、石垣とこの堀で武者溜りへの攻撃を防ぐために設けられたと考えられます。



旧市民会館駐車場の発掘調査

かつて駐車場として利用していた一帯に、江戸時代に石垣や三十間堀の一部があつたと考えられています。これらの痕跡を確認し、復元整備と保存に向けた調査をするため、令和4年11月頃から1か月程度の期間で発掘調査を予定しています。発掘調査では、石垣

の「根石^{ねいし}」や三十間堀の痕跡が見つかることが期待されています。

また、発掘調査現場を皆さんにご覧いただきたいと考えています。発掘調査の進捗状況によって日程などを決定し、市ホームページなどでお知らせします。

※根石^{ねいし}石垣を安定して積むための基礎となる石。



市ホームページ



旧市民会館の解体

平成26年度に閉館した旧市民会館は、武者溜りの復元整備を進めるため、令和6年度の解体着手を目指しています。今後は、建物の解体方法やがれきの搬出ルートなどの検討を進めていきます。

武者溜りの復元整備

旧市民会館の解体後、発掘調査の結果や絵図などを基に武者溜りの復元整備に着手する予定です。これにより、上田城の二の丸東虎口(二の丸橋付近)から本丸東虎口櫓門に至るまでの空間が、敵の進入を阻むために、石垣や三十間堀を用いて、いかに複雑に入り組んだ構造をしていたのか、当時のお城の景観を体感できるようにになります。

ただし、上田城跡公園は市民の皆さんの憩いの場・観光の拠点としての役割を併せ持っています。史実に忠実な上田城の復元はもちろんですが、公園としての使いやすさや居心地の良さなどを考慮した整備ができるよう、取り組んでまいります。



寄附金の活用方法は？

平成30年に寄附いただいた10億円余りやふるさと寄附金などの資金は、今後予定している武者溜りの整備や櫓の復元など、上田城を江戸時代の姿に近づけるための財源として活用していく予定です。

本丸7つ櫓の復元に向けて

真田昌幸の居城であった上田城は、関ヶ原の合戦後、建物や石垣などは壊され、堀も埋められてしまいました。江戸時代に真田信之に続いて上田城主となった仙石忠政は、上田城の復興に取り組みました。本丸には7棟の櫓が建てられていたことが絵図などで分かっていますが、明治時代に西櫓以外が全て解体されてしまいました。北櫓と南櫓は城外に移築されていたものが市民によって買い戻され、昭和24年に再移築されたものです。また、櫓門は古写真を基に平成6年に復元されたものです。

歴史的建造物を復元する際の新しい「手順」が示されました

令和2年4月に、城郭に歴史的建造物を復元する際の新しい「手順」が文化庁の諮問機関である文化審議会から示されました。これは「復元的整備」という基準についてのもので、これまで市が続けてきた「復元」の取組が必要とされてきた古写真や当時の設計図の類がどうしても見つからない場合には、「参考となる同時代の建造物を参考資料として復元をすることが可能」というものです。ただし、これまでの文化庁との櫓の「復元的整備」に関する協議では、いまだに建物の外観が判明する写真が必要であるという見解を示されています。

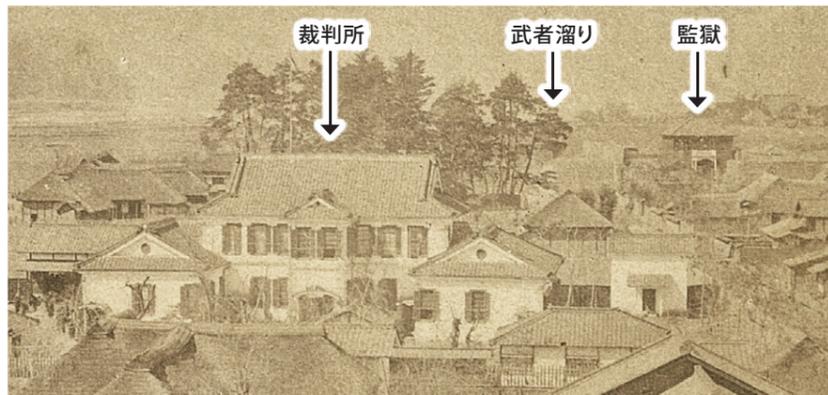
この点については、上田城本丸7つ櫓の一つである西櫓が江戸時代から唯一現存しており、7つの櫓は全て同じ構造・大きさをしていた可能性が高いことから、西櫓を参考資料として用いることができないか、文化庁と協議を続けています。今後もこれを裏付けるデータを集め、櫓復元が許可されるよう、取り組んでまいります。

古写真や絵図・図面を探しています！

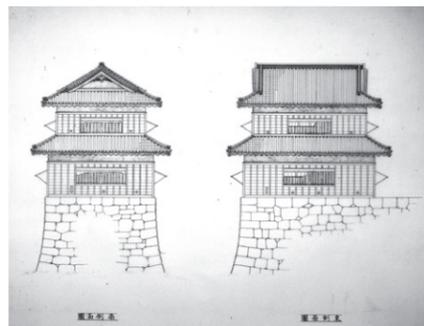
残り4棟の櫓の復元には、当時の姿を明らかにするための古写真や絵図、図面などの分析資料が不足しています。どんな些細な情報でも構いませんので、生涯学習・文化財課へ23・6362へお寄せください。



■明治11年頃の本丸東虎口(櫓門・北櫓・西櫓)市立博物館所蔵



■裁判所と監獄(武者溜りの一部が写った古写真/推定明治20年代)

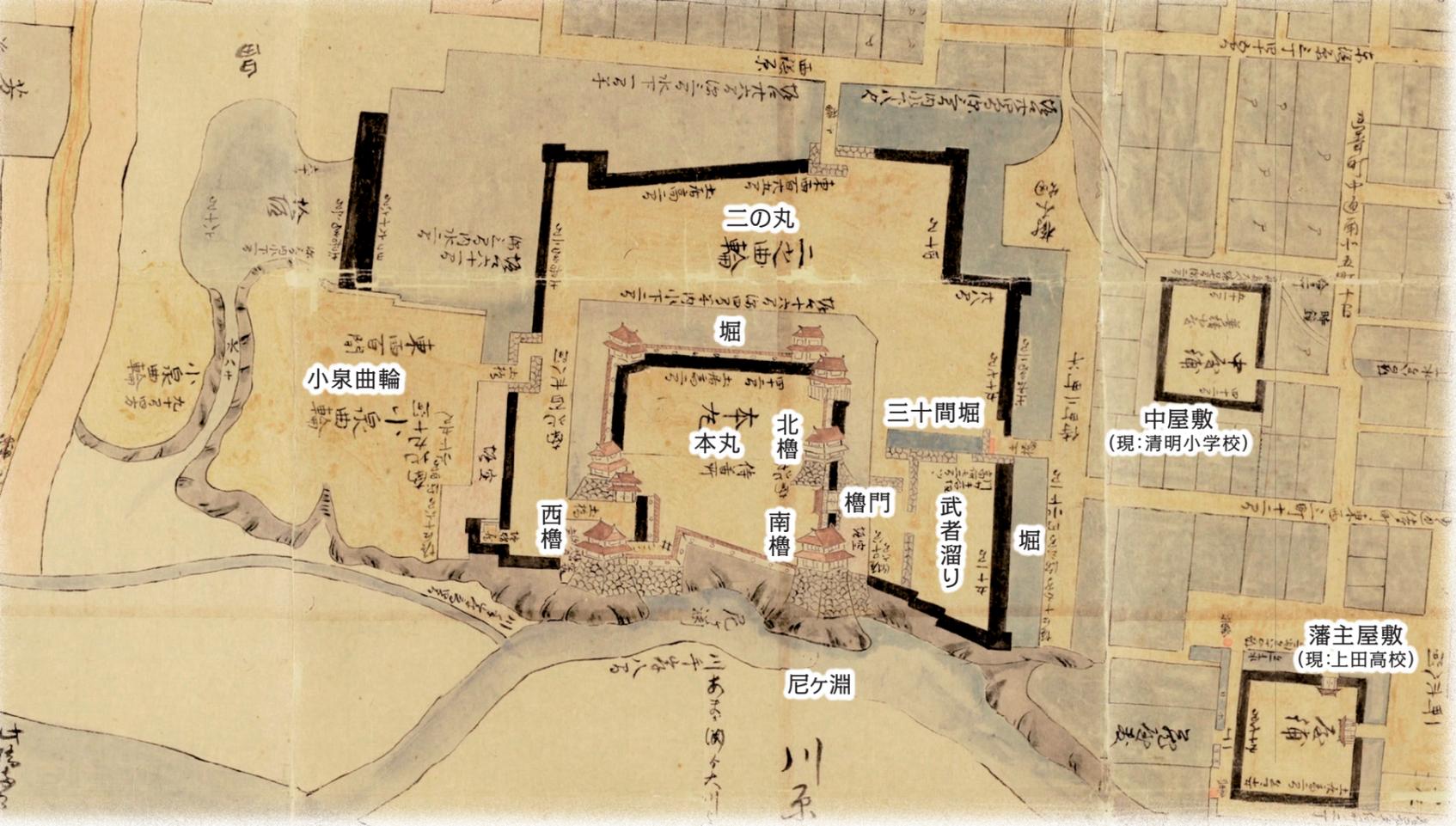


■上田城櫓移転設計図(昭和17年)



上田城は、明治時代に払い下げられて以降、公園や神社、運動場、鉄道敷などさまざまな用途に利用されたことで、江戸時代の雰囲気や失われてしまっている場所があります。今後は公園として必要な用途を維持しながら、訪れた皆さんが「上田城」をイメージ、体感できるように復元や整備を進めていきます。上田城に関する資料の調査・収集など、皆さんのより一層のご協力をよろしく願います。

生涯学習・文化財課
23・6362



■仙石時代上田城及び城下町絵図(天保15年写) ※市立博物館秋季企画展で展示予定

仙石忠政 入封400年 「叶うのか7つ櫓の復元」 ～上田城復元の歩みとこれから～

市立博物館
秋季企画展

仙石忠政入封^{じゅうほう}*400年目を迎え、廃城後の歴史と上田城復元の歩みを振り返り、今後の武者溜りの整備や本丸7つ櫓復元に向けた取組の現状についてご紹介します。

※入封 幕府の命令により新たな土地に入ること。

- ◆期間 9月24日(土)～11月8日(火)
- ◆開館時間 9:00～17:00 (入館は16:30まで)
- ◆休館日 水曜日、10月11日(火)
- ◆場所 市立博物館 本館1F展示室/別館1F休憩室
- ◆入館料 300円(高校・大学生200円、小・中学生100円。障がい者およびその介助者、上田地域定住自立圏内の高校生以下は無料。団体割引あり)

市立博物館 ☎22・1274